

## Health & Medical Care

### 健康・医療のまちづくりと地域活性化を目指して 摂津市との連携協定を締結



協定調印式での楠見晴重学長と森山一正 摂津市長(右)

4月2日、関西大学と摂津市は、吹田操車場跡地のまちづくりを契機として、活力ある地域づくりや健康・医療のまちづくり等について相互に協力を進めるため連携協定を締結することに合意し、千里山キャンパスにて調印式を行った。これにより、今後は特色ある地域づくり、健康・医療のまちづくりをはじめ、地域の活性化に関する共同研究等の取り組みを協力して進め、その成果を地域へと生かしていく。

また、同日同じ会場で、国立研究開発法人国立循環器病研究センターと摂津市も、健康寿命の延伸を目指した予防医療や、医療や健康づくりに関する調査研究等について、相互の協力を進めるため連携協定を締結。国立循環器病研究センターと本学は2014年12月に健康・医療のまちづくりに関する包括協定を締結しており、今後は本学と国立循環器病研究センター、摂津市や地元吹田市などが連携して取り組みを進めることとなる。

### 健康・医療のまちづくりの未来を探る 吹田操車場跡地「健康・医療」のまちづくりシンポジウムを開催



盛岡通 教授

関西大学では、独立行政法人国立循環器病研究センター、吹田市、摂津市との共催で、2月28日に千里山キャンパスにて、「吹田操車場跡地『健康・医療』のまちづくりシンポジウム」を開催した。

当日は「国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成に向けて」をテーマに、同センターの理事長兼総長の橋本信夫氏が講演。その後、本学環境都市工学部の盛岡通教授をコーディネーターに、国立循環器病研究センター、自治体、地元企業の関係者らが「国循と市民、企業の連携で築く、健康・医療のまちづくりを考える」をテーマにパネルディスカッションを展開し、約500人の来場者とともに、吹田市と摂津市に位置する吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくりの目指すべき姿を探った。

本学は、吹田操車場跡地のまちづくりについて、かねてから環境都市工学部を中心に研究・提案を行っており、今後も『健康・医療』をテーマにしたまちづくりや、その担い手となる人材育成などに取り組む予定だ。



▲国循、市民、地元企業の関係者で展開されたパネルディスカッション



▲シンポジウムには約500人が来場



### ●大学とメーカーによる産学共同商品を紹介・販売

## 全国の大学発ブランド商品が集結 第8回「大学は美味しい!!」フェアに出品



▲連日盛況だった「大学は美味しい!!」フェア

近年、全国の大学で研究・開発した技術を用いた食品などをメーカーが積極的に商品化する産学共同商品が注目されている。5月28日～6月2日、高島屋新宿店において、「大学は美味しい!!」フェアが開催された。

関西大学からは、「おにもぬもりパン」と「和ne チャージS(わんちゃーじえす)」、「但馬の焼肉のたれ」と「但馬トマトハバネロドレッシング」「やぶマヨ」「KUUDLE 関麺」の6点を出品。「おにもぬもりパン」は、乳幼児から要介護者まで家族と一緒に食べられることをコンセプトに開発されたパンで、化学生命工学部の河原秀久教授が開発したエノキタケ由来の接着たんぱく質エキスを、商学部の学生チームがネーミングを行った。製造は、白ハト食品工業株式会社が担う。「KUUDLE 関麺」も同じく接着たんぱく質エキスを、おそば。「和ne チャージS」は、アスリートや高齢者が手軽に効率よくエネルギー補給で

きるお餅で、冷凍後、解凍してもつきたての食感が特徴。同教授によるカイワレ大根由来の不凍たんぱく質エキスを、お餅に用いている。また、「但馬の焼肉のたれ」と「但馬トマトハバネロドレッシング」は、環境都市工学部の山本秀樹教授研究室が、肥料開発の監修を担い、土づくりから関わったハバネロや米を使った調味料。期間中は、日本全国から研究や地域との取り組みで生まれた各大学いちおしの商品が並び、連日、多くの来場者で盛り上がった。



●KUUDLE 関麺

●おにもぬもりパン

●和ne チャージS

●やぶマヨ

●但馬の焼肉のたれ(左)  
●但馬トマトハバネロドレッシング(右)

### ●関西大学と堺市の地域連携事業

## メディアアートや地図アプリで堺の魅力を発信 総合情報学部が「Art Media Design (AMD)展」開催

3月7日・8日、堺市立町家歴史館・山口家住宅において、総合情報学部の井浦崇准教授・荻野正樹教授・松下光範教授・堀雅洋教授とそのゼミ生約30人が中心となり「Art Media Design展」が開催された。江戸時代初期に建てられた山口家住宅は、国の重要文化財にも指定されている貴重な町家。今回のイベントは、堺市の協力の下、同学部生の指導にあたっているアーティストも協力し、山口家住宅や堺市の魅力を織り込んだデジタル

メディア作品を展示するユニークな試み。

当日は、子供からお年寄りまで2日間で280人が来場。山口家住宅の歴史や見どころとともに、周辺を巡るおすすめコースを動画や地図アプリで



▲デジタルメディア作品に取り組んだ総合情報学部の学生



●老夫婦型会話ロボット ●Back to the 山口家住宅 ●AMD展・展示の様子

紹介する特設サイト「堺町家物語」、400年にわたる同住宅の歴史を茶室内の障子に投影する映像作品「Back to the 山口家住宅」、ゆったりと言葉を交わしてうなずき合う「老夫婦型会話ロボット」などを公開。これらの作品が昔ながらの町家に溶け込み、来場者は懐かしくも新しい空間を体感して楽しんだ。